



藤四郎像(西拝戸町)



4/14 土

3年かけて 陶祖800年祭を開催!

▼表紙関連記事

「陶祖」である加藤四郎左衛門景正かとうしろうざえもんかげまさが生きたとされる時代から800年を記念し、その偉業を広く紹介し、陶都瀬戸の再発見と発展につなげるために、さまざまな事業を今年度から平成26年度にかけて開催します。

オープニング事業は、第51回せと陶祖まつりの初日に、「陶祖」と「瀬戸のやきものの歴史」を知っていただくために「陶祖・藤四郎フォーラム」を瀬戸蔵つばきホールで開催しました。

山川一年さん(元市歴史民俗資料館館長)は「瀬戸における陶祖像」を講演され、「藤四郎は小学校の校歌に書かれており、教育の世界にも登場している。」と説明され、藤四郎を地元が大切にしてきたことを紹介されました。

上川通夫さん(愛知県立大学日本文化学部教授)は「藤四郎とその時代」、藤澤良祐さん(愛知学院大学文学部教授)が「瀬戸窯のはじまり」、長江惣吉さん(陶芸家)が「古瀬戸と南宋の陶磁技術の比較【表紙の写真】」を講演されました。

ステキな作品が
たくさんありました♪



春の陶フェスタ

「瀬戸陶芸協会」「瀬戸伝統陶芸会」「瀬戸クラフト協会」の3団体による初めての展覧会



光に当てると透けて
見えるんですよ～!!



新進作家による作陶実演。昨年のもめし碗グランプリ展 磁器部門で優秀賞に選ばれた樽田裕史さん(新世紀工芸館研修生)が、来場者を前に「蛸手」という技法を披露しました。模様ほたるでの部分を光に当てると透けて見えるのが特徴で、来場者は作品を手にとって見ながら「きれいだね。」と話していました。

樽田さんによる作陶実演

陶祖藤四郎伝説

瀬戸には古くから「加藤四郎左衛門景正かとうしろうざえもんかげまさ」による開窯説が伝えられています。このいわゆる陶祖藤四郎伝説は、加藤四郎左衛門景正が、1223年(鎌倉時代)に永平寺を創建する僧道元どうげんと宋(中国)に行き、陶法の修業の後帰国します。その後、製陶に適した土地を探し各地で試し焼きを行った末、ついに1242年、瀬戸において良土を発見し窯を築いたのが瀬戸焼の始まりというのです。